

## 研修会報告

平成26年11月15日

文責：病理部門長 戸村弘樹

### 研修会テーマ「悪性リンパ腫をみる」

開催日時 平成26年11月15日（土）14：00～17：00

会場 東北大学医学部保健学科第一講義室

講演1：「分子生物学的手法を用いた病理検査技術の現状とこれから」

講師：シスメックス株式会社講師

講演2：「骨髄クロットの有用性」

講師：宮城県立こども病院 検査部 高崎 健司 技師

講演3：「血液学的検査における悪性リンパ腫へのアプローチ-フローサイト検査も含めて」

講師：帝京大学医学部附属病院中央検査部 野木 岐実子 先生

生涯教育点数 専門20点

参加者 会員参加者30名 非会員1名 賛助会員0名 学生0 実務委員12名 計43名

### 内容

今回は病理・細胞診・血液分野での合同研修会を行った。臨床検査室において他部門との連携は今後ますます必要になってきており、3分野に比較的共通する「悪性リンパ腫」を題材に各分野に精通する講師に講演をお願いした。

講演1では、メーカーより、乳腺センチネルリンパ節遺伝子検査機器「OSNA法」について原理から実際の使用実績までの紹介があった。また、今後、血液から癌遺伝子を発見する新たな試みがなされていることも紹介され、医療技術の日進月歩に驚かされた。

講演2では、骨髄クロットの作成方法から診断の実際まで、動画を用いて分かりやすく説明して頂いた。高度な技術を要する2重免疫染色の標本写真を用いた解説は、こども病院ならではの骨髄のウイルス感染例など一般病院ではなかなか経験できない症例であり、非常に勉強になった。

講演3では、血液検査におけるフローサイトメトリーの読み方を実際の症例を元に、分かりやすく解説して頂き、明日からの検査にすぐに役立つものであった。マルク標本とフローサイトメトリーの対比や両者のメリット、デメリットも説明して頂き、やはり形態はこの分野において非常に大事なツールであることは、今も昔も変わらないと実感した。

細分化する臨床検査において、専門分野を深く探究することは言うまでもなく重要なことであるが、他分野の検査を理解し連携していくことは、検査の価値を高めていくことに必須であると感じた研修会であった。今後もこのような研修会を企画し、より他部門との連携を深めていきたいと考える。